

追加型投信/内外/債券

三菱UFJ グローバル・ボンド・オープン(毎月決算型)

<愛称:花こよみ>

決算・分配金のお知らせ

ファンド情報提供資料
データ基準日:2019年12月20日

平素より、「三菱UFJ グローバル・ボンド・オープン(毎月決算型)<愛称:花こよみ>」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは2019年12月20日に決算を迎え、基準価額水準や市況動向に加え、分配原資(分配対象額)の状況等を総合的に勘案して、当期の分配金(1万口当たり、税引前)を前期の15円から、10円といたしましたことをご報告いたします。

分配金の水準を下げて信託財産の成長を図りながら、安定した収益分配を行うことが投資家の皆さまの中長期的な利益につながると考えたものです。

当レポートでは、分配金引き下げの背景および運用状況等についてご説明させていただきます。今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

分配金と基準価額(2019年12月20日)

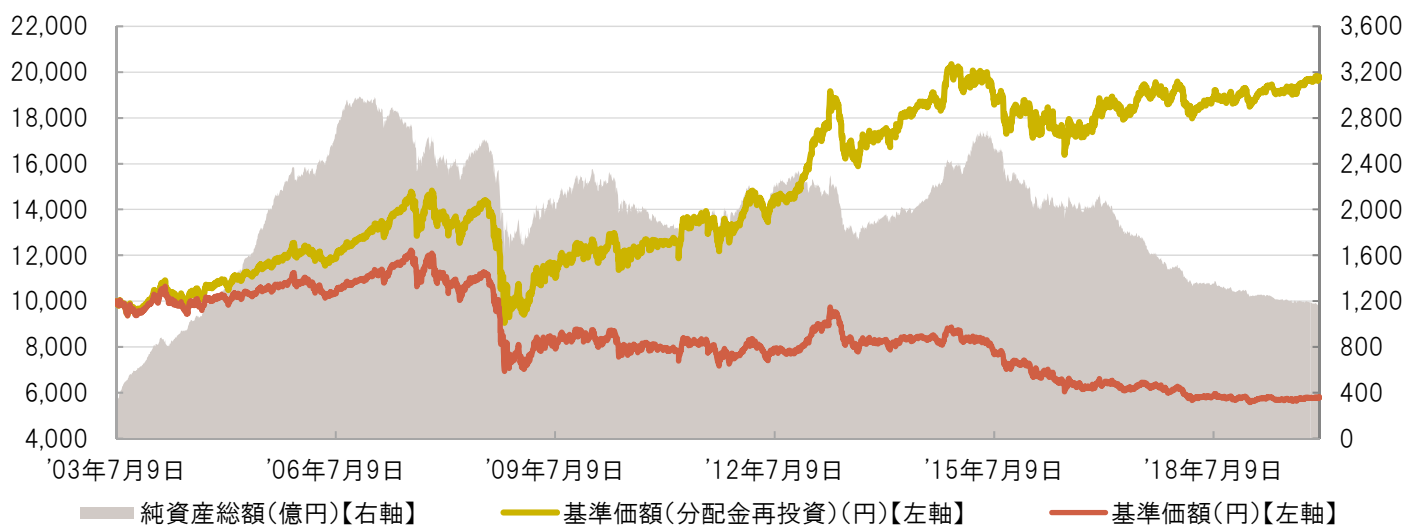
分配金(1万口当たり、税引前)	10円
基準価額(1万口当たり、分配落ち後)	5,785円

【分配金実績(1万口当たり、税引前)】

第193期 (2019年8月)	第194期 (2019年9月)	第195期 (2019年10月)	第196期 (2019年11月)	第197期 (2019年12月)	設定来累計
15円	15円	15円	15円	10円	10,061円

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額の推移(期間:2003年7月9日(設定日)~2019年12月20日)



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

三菱UFJ グローバル・ボンド・オープン(毎月決算型) <愛称:花こよみ>

Q1. なぜ分配金を引き下げたのですか。

A1. 現在の基準価額水準、市況動向に加え、分配対象額の状況等を総合的に勘案した結果、分配金の水準を引き下げ、その差額をファンドの純資産に留保することで信託財産の成長を図ることが投資家の皆さまの中長期的な利益につながると判断しました。

当ファンドは、世界主要国の債券を実質的な主要投資対象とし、信用力が高く、かつ、相対的に利回りが高い国の債券に投資することにより、利子収益の獲得をめざし運用しており、2019年12月13日時点の基準価額は、5,805円となっています。

当ファンドは、下表の通り分配を継続してまいりましたが、多くの先進国の金利が長期的に低下傾向にあり、当ファンドの利子収入の減少が続いております。

このような状況は分配金の支払いと合わせて分配対象額の減少要因になっています(図①)。分配金に関しては安定的な分配をめざしておりますが、今後も安定的な分配を継続し信託財産の成長をめざしていくためには、分配金を引き下げる必要があると判断いたしました。

なお、今回15円から10円に引き下げた分配金の差額分(5円)はファンドの純資産に留保されますので、引き下げを行わなかった場合と比べて、基準価額の下落は抑えられ、信託財産の成長につながるものと考えています。

図① 【ご参考】最近の分配対象額等の傾向(第184期～第195期)

(1万口当たり、税引前)(単位:円)

計算期	第184期	第185期	第186期	第187期	第188期	第189期
項目	(’18年11月)	(’18年12月)	(’19年1月)	(’19年2月)	(’19年3月)	(’19年4月)
当期分配金	30	15	15	15	15	15
当期収益	12	12	8	13	11	11
当期収益以外	17	2	7	2	3	3
翌期繰越分配対象額	235	233	226	224	221	218

計算期	第190期	第191期	第192期	第193期	第194期	第195期
項目	(’19年5月)	(’19年6月)	(’19年7月)	(’19年8月)	(’19年9月)	(’19年10月)
当期分配金	15	15	15	15	15	15
当期収益	6	6	8	10	10	11
当期収益以外	9	8	7	5	4	3
翌期繰越分配対象額	209	201	194	190	185	182

- ・「当期収益」、「当期収益以外」は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
- ・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ グローバル・ボンド・オープン(毎月決算型) <愛称:花こよみ>

Q2. 2019年の市場環境と運用状況について教えてください。

A2. 8月にかけて、世界経済の減速懸念を背景に長期金利低下、円高が進んだものの、その後は米中通商問題などに対する懸念が後退したことから、長期金利上昇、円安基調で推移しました。

2019年初来の市場環境と当ファンドの運用状況

【市場環境】

<債券市況>

米国、シンガポール、豪州の長期金利は低下しました。

8月にかけて、米中通商問題の長期化観測などを背景に世界経済の減速懸念が高まり、米国や豪州などで利下げ観測が高まったことなどから、3カ国の長期金利は低下基調で推移しました。

その後、上記米中通商問題や英国の合意なき欧州連合(EU)離脱に対する懸念が後退したことなどから、3カ国の長期金利は緩やかな上昇基調となりました。

その結果、年初来でみると、3カ国の長期金利は低下して終わりました。(図②)

<為替市況>

米ドルとシンガポールドルは対円でほぼ横ばいとなった一方、豪ドルは対円で下落しました。

4月にかけて、米国や中国の経済指標の改善などを背景に投資家のリスクセンチメント(市場心理)が改善した結果、米ドル、シンガポールドル、豪ドルは対円で上昇しました。

8月にかけて、世界経済の減速懸念が高まったことなどを受けて、世界経済の影響を受けやすい豪ドルを中心に米ドルやシンガポールドルも対円で下落しました。

その後、米中通商問題や英国の合意なきEU離脱に対する懸念が後退したことなどから、米ドル、シンガポールドル、豪ドルは対円で緩やかに上昇基調で推移したものの、年初来でみると、米ドルとシンガポールドルは対円でほぼ横ばいとなった一方、豪ドルは対円で下落しました。(図③)

(2019年12月13日現在)

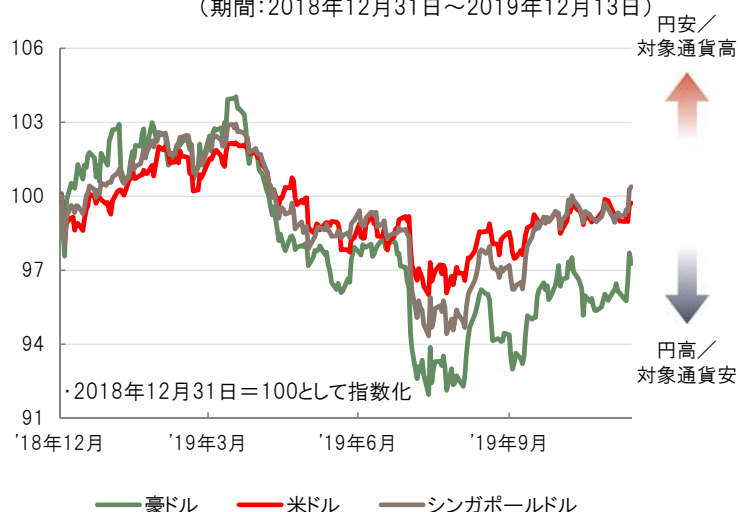
図② 10年国債利回りの推移

(期間:2018年12月31日~2019年12月13日)



図③ 為替レート(対円)の推移

(期間:2018年12月31日~2019年12月13日)



(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ グローバル・ボンド・オープン(毎月決算型) <愛称:花こよみ>

2019年初来の市場環境と当ファンドの運用状況

【運用状況】

このような環境下、当ファンドでは相対的に利回りの高い国に重点的に配分するという運用方針に則り、年初から米国と豪州の2カ国で運用を行ってきましたが、2019年3月にシンガポールを組み入れ、豪州を売却することを決定しました。

上記の結果、当ファンドの基準価額(分配金再投資)は、米国、シンガポール、豪州の長期金利が低下したなどを受けて上昇(4.8%)しました。

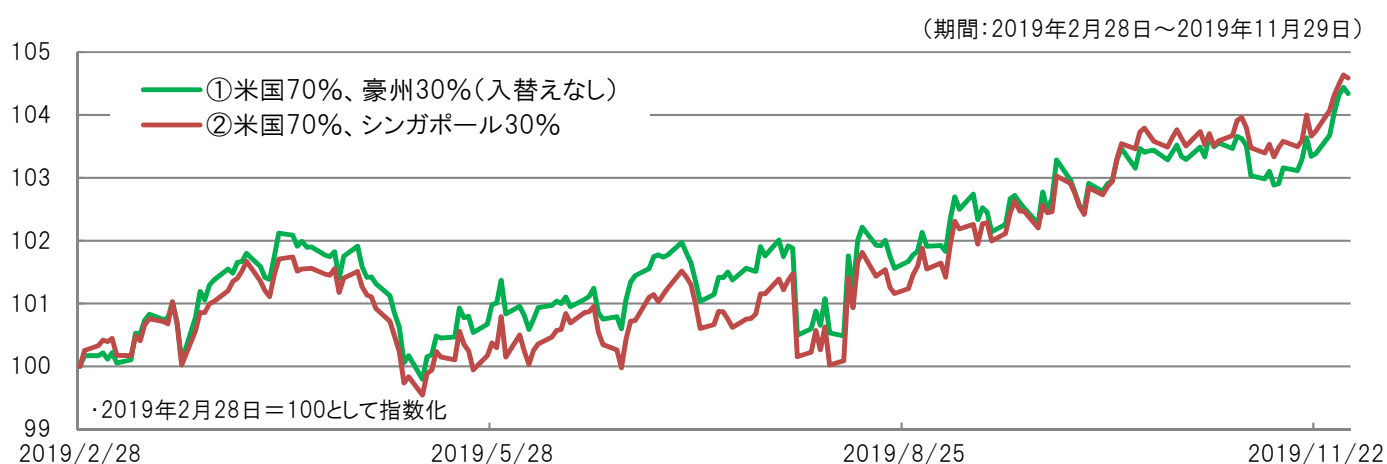
なお、設定来からの基準価額(分配金再投資)は98.0%の上昇となっています。

(2019年12月13日現在)

■投資国の入替え効果を指数を使ってシミュレーションしてみました。

【ご参考】豪州からシンガポールへの入替えの有無比較(円ベース)

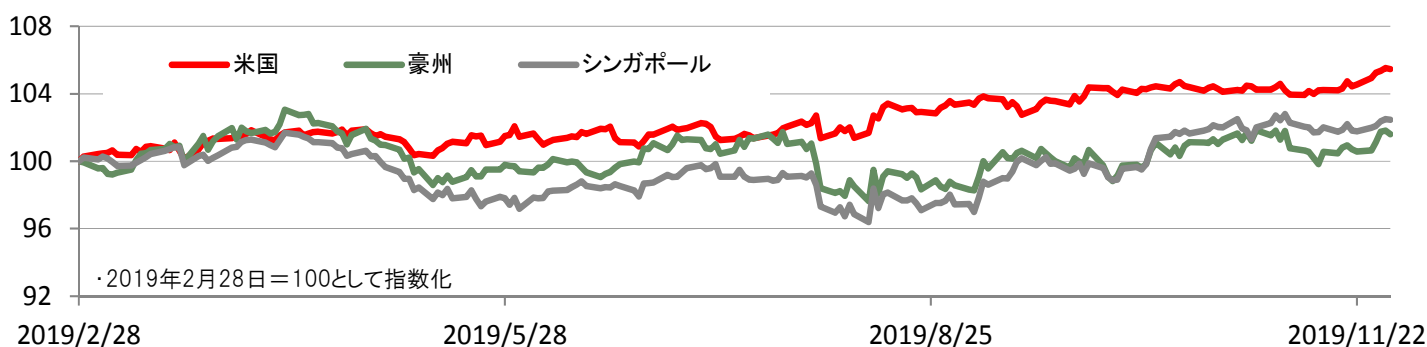
	投資国の内容	2019年2月末から11月末までの騰落率
パターン①	入替えなし。米国70%、豪州30%のまま。	4.34%
パターン②	豪州30%→シンガポール30%に入替え。米国は70%のまま。	4.59%



(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

【ご参考】FTSE世界国債インデックス国別パフォーマンス(円ベース)

(期間:2019年2月28日~2019年11月29日)



(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は、指数を使用しています。指数については「本資料で使用している指数について」をご覧ください。■ 上記はシミュレーションであり、実際の運用とは異なります。したがって、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ グローバル・ボンド・オープン(毎月決算型)〈愛称:花こよみ〉

Q3. 今後の市場見通しと運用方針について教えてください。

A3. 米国とシンガポールの長期金利はもみ合う展開を想定しております。
為替は、米ドルとシンガポールドルは対円で堅調な推移を想定しております。

【市場見通し】

＜債券市況＞

当面の米国とシンガポールの長期金利はもみ合う展開を想定します。

米国では、インフレ圧力が抑制されている一方、堅調な労働市場などを背景に、当面政策金利の据え置きが見込まれます。

シンガポールでは、世界経済減速の影響などを受け、成長・インフレともに低迷しています。先行きに関しては、労働市場の軟化に伴い、インフレは抑制された状態が続く見込みも、半導体等のIT製品が主力産業かつ主要な輸出品である同国は、世界的な半導体サイクルの回復などにより成長率は緩やかに加速する見込みです。

そのような見通しの下、中央銀行に相当するシンガポール通貨庁(MAS)は、現行の金融政策を維持するものと想定します。

＜為替市況＞

米ドルとシンガポールドルは対円で堅調に推移することを想定します。

これまで不透明要因であった米中通商問題や英国のEU離脱に関して、米中間の協議で発動済みの対中関税を停止あるいは引き下げを行うことなどで第1段階の合意がなされたことに加え、英国の総選挙で与党保守党が単独過半数を獲得したことから、政治的な不透明感は幾分後退しています。

米中通商協議に関しては、中国側が希望していた関税の撤廃は第1段階では実施されなかったものの、今後第2段階の合意に向けた交渉が開始されることが表明されたこともあり、米中対立が大きく悪化しない限り、投資家のリスクセンチメント改善が見込まれ、米ドルとシンガポールドルは、対円で堅調に推移することを想定します。

【運用方針】

引き続き、世界の主要国のうち、信用力が高く、かつ、相対的に利回りが高い国の債券に投資することにより、利子収益の獲得をめざします。相対的に利回りが高いと判断される投資対象国を複数選定し、最も利回りが高いと判断される国に重点配分します。

なお、市場環境等を勘案し、毎月、投資国および配分比率の見直しを行い、必要に応じて入替えを行ってまいります。

(2019年12月13日現在)

■ 市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

【本資料で使用している指数について】

■ FTSE米国債インデックス、FTSEオーストラリア国債インデックス、FTSEシンガポール国債インデックス

各インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、米国債／オーストラリア国債／シンガポール国債の総合収益率を指数化した債券インデックスです。

上記指数のデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託から分配金が支払われるイメージ

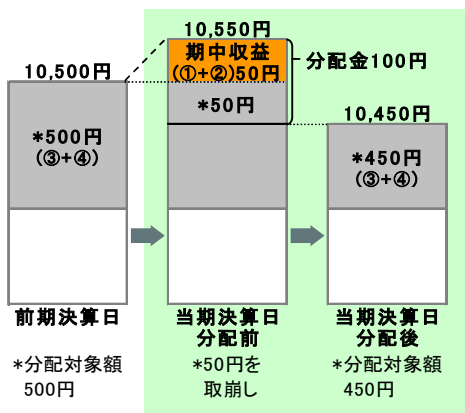


- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

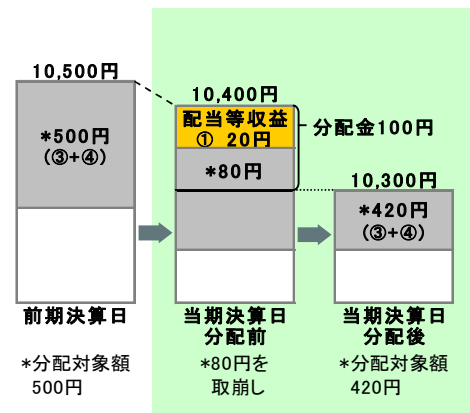
分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



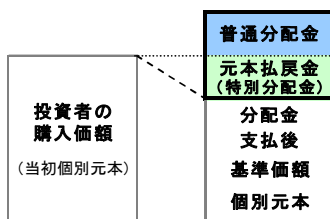
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金：当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。

収益調整金：追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の受益者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

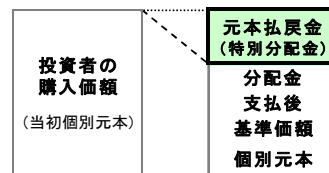
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

購入時手数料に関する留意事項

お客さまにご負担いただく購入時手数料の具体例は以下の通りです。販売会社によっては金額指定(購入時手数料を含む場合と含まない場合があります)、口数指定のいずれかのみのお取扱いになる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。

[金額を指定して購入する場合](購入時手数料を含む場合)

例えば、100万円の金額指定でご購入いただく場合、100万円の中から購入時手数料(税込)をご負担いただきますので、100万円全額が当該ファンドの購入金額となるものではありません。

[口数を指定して購入する場合]

例えば、基準価額10,000円(1万口当たり)の時に100万口ご購入いただく場合、購入時手数料=(10,000円÷1万口)×100万口×手数料率(税込)となり、100万円と購入時手数料の合計額をお支払いいただくこととなります。

三菱UFJ グローバル・ボンド・オープン(毎月決算型)

(愛称:花こよみ)

追加型投信/内外/債券

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

世界主要国の債券を実質的な主要投資対象とし、信用力が高く、かつ、相対的に利回りが高い国の債券に投資することにより、利子収益の獲得をめざします。

■ファンドの特色

特色1 世界の主要国のうち、信用力が高く、かつ、相対的に利回りが高い国の債券に投資することにより、利子収益の獲得をめざします。

- ・相対的に利回りが高いと判断される投資対象国を複数選定し、最も利回りが高いと判断される国に重点配分します。ただし、市場環境等を勘案し一定の範囲内で変更することがあります。なお、毎月、投資国および配分比率の見直しを行い、必要に応じて入替えを行います。
- ・投資対象とする債券の種類は、各国の国債、政府保証債のほか、オーストラリアの州政府債および各国通貨建ての国際機関債とします。
- ・ポートフォリオの構築は国別に、残存期間毎に最終利回りの高い銘柄を中心に選択します。

特色2 実質的な組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。

特色3 毎月の分配をめざします。

- ・毎月20日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。また、分配金額は運用実績に応じて変動します。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

■ファンドの仕組み

- ・運用は主に三菱UFJ グローバル・ボンド・マザーファンドへの投資を通じて、世界主要国の債券へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入公社債の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
為替変動 リスク	組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。
信用 リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ グローバル・ボンド・オープン(毎月決算型) (愛称:花こよみ)

追加型投信/内外/債券

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位/販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込不可日	次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。 ・毎年復活祭(Easter Day)に該当する日の前営業日および翌営業日 ・毎年クリスマス(12月25日)および翌営業日 ※具体的な日付については、委託会社のホームページ(「ファンド関連情報」内の「お申込み不可日一覧」)をご覧ください。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することがあります。
信託期間	無期限(2003年7月9日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回るようになった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎月の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限2.2%(税抜 2%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.21%(税抜 年率1.1%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しの最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会:一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufig.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称:三菱UFJ グローバル・ボンド・オープン(毎月決算型)

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○		○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社清水銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第6号	○			
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第624号	○		○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
株式会社三菱UFJ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	○		○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○